

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>ホームの理念の一つの中に「地域社会に密着した開かれた施設を目指す」があり、地域に根ざした施設を目指している事を、管理者・職員が意識して職務に取り組んでいる。病院・理髪店・買い物先等、在宅からの地域との関係を継続できるように支援している。</p>	<p>地域の方が温かく見守ってくださり、催し物への誘いなどあり、見学に出掛けて行ける環境に有る。受け入れるばかりでなく、こちらからも何か出来ることがないか考えている。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎朝の申し送りにて理念を唱和し、その内容を念頭に毎日の介護にあたり、理念は職員の名札の裏に書かれていて、いつでも確認できるようにしている。職員会議や担当者会議等において理念に添ったサービスを行っているか随時確認している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>理念は玄関に掲示し、家族の面会の折に見て頂いている。又、毎月発行の通信において、入居者が地域に出掛けた際の様子を掲載している。</p>	<p>地域の方には、今以上に説明が出来る機会を検討する必要があると思っている。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>管理者・職員は、隣近所の方に努めて挨拶をし、介護についての相談なども受け、関係を親密にしていくように努力している。又、自治会の一員として、広報を配布していただき、それから情報を得て行事等に参加することで知名度も上がっている。温かい言葉を掛けたり、新鮮な野菜や漬け物を持ってきて下さる方もいて開設当初より、交流が出来ている。</p>	<p>これから、より地元の人と交流を持てる機会を作り、地域貢献できる事を進めていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>今回の情報を元に、改善シートを活用して、ケアの質の向上を図る。</p>
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>運営推進会議を3回実施し、皆さんから活発に意見を頂けるようになり、それを念頭に、サービス向上に生かしたい。</p>
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>職員全員が熟知していない為、外部研修等に参加し、学ぶ機会をつくる。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>施設内での虐待は行われていないが、今後も防止していく上で学んだり、話し合ったりし、意識向上出来る機会を作りたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>入居者と信頼関係を築き、普段から意見が自由に言える環境作りと、苦情を言えない入居者の隠れたニーズを引き出す介護力を身につけていきたい。</p>
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>入居者と信頼関係を築き、普段から意見が自由に言える環境作りに努めている。</p>
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の移動の際は、入居されている方の環境の変化を考え必要最小限にしている。</p>		
<p><b>5.人材の育成と支援</b></p>			
<p>17</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回グループホーム内研修(勉強会)を始め、積極的に外部研修にも参加する機会を設けている。</p>		
<p>18</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>月1回の地域ケア会議や介護支援専門員研修会など地域の同業者と勉強する機会がある。又、グループホーム協会に加入しており、年4回の西北五グループホーム協会の研修に参加し、情報交換が出来、交流の機会を持っている。</p>		
<p>19</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は歓送迎会、忘年会などで交流を持つ努力をしている。管理者は休み、勤務交代の希望も出来るだけ取り入れ、スタッフの悩み等、相談が有れば随時受け、解決出来るように配慮している。</p>		<p>開設してから、あわただしく過ぎて来て、やっと落ち着いた状態になった為、職員との良好なコミュニケーションに努め、ストレス軽減を図っていきたい。</p>
<p>20</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は職員個々の実績、勤務状況を把握しており、職員が向上心を持って働ける様、外部研修に参加させたり、資格取得を奨励している。</p>		<p>管理者は職員の得意な面を伸ばし自信が付くことで、不得意な面を努力出来るような環境作りをする。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談された時は、居宅介護支援専門員から情報を収集して、本人や家族の困っている事や不安な事を、気兼ねなく話していただけるように何度も訪問する。総合的な判断から、ご希望に添った計画を立てている。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた時は、家族から困っている事や不安な事を良く聞く事にしている。その際は自宅や入院先に訪問する事も有る。どのサービスが良いのか、介護保険の申し込みの支援や、すでに要介護であれば、担当の介護支援専門員とも連絡を取り、担当者会議にて、本人に合ったサービスを支援する。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人、家族には前もって施設見学を勧め、施設の雰囲気を感じ、職員と顔なじみになって頂き、不安の軽減に努めている。見学できない本人には、こちらから訪問している。利用の際は、環境の変化を最小限にする為、なじみの家具、寝具等を持参して頂き、家族にも面会を多くお願いしている。職員も随時関わり、不安や希望を聞き入れ早急に解決し、他の入居者に馴染めるように支援している。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者は人生の先輩であり、地域の行事や生活習慣を教えてもらっている。又、職員も家族の一員として、困ったことを相談したり、入居者の悲しみを受け止めたり、喜怒哀楽を共にする関係を築いている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の本人を心配される気持ち、在宅で頑張ってきた経緯等を受け止め、気軽に何でも話せる環境作りを心掛けている。入居者の生き生きとした表情など些細な事でも、近況を報告している。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認知症の理解不足から、本人の病状を理解できず、家族との関係がうまくいかない事がある為、これまでの経緯を受け止め理解し、環境を整え、本人が落ち着いて、家族も認知症を理解し、本人と向き合える様に支援している。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームを利用される事で、関係がとぎれないように、かかりつけ医の継続や行きつけの美容院、スーパー、友人関係が継続できるように支援している。		なじみの人・場所等の把握が出来ていない入居者もあり、これから更に情報を収集し、関係作りをしたいと思う。
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の生活歴や性格、認知症の症状を良く知り、入居者同士の関わりがスムーズに行くように支援している。又、お互いが役割をもって、尊重しあい関わりの中で支え合って行ける様に、職員が関わる様にする。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院でサービス終了になった入居者には、病院を定期的に訪れて、病院の担当者と情報交換をし、本人、家族と退院後についての話し合いをし、他施設の紹介など、相談にのっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
30	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が何を求めているかコミュニケーション等で、日々アセスメントし、本人の意向を聞き出すようにしている。又、本人のケア会議では、本人の意向を尊重し、希望にそったプランを作成している。	
31	これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状況はセンター方式アセスメントにて、本人、家族、担当の介護支援専門員から情報を収集しているが、入居者全員の詳しい情報の収集がまだ不十分である。	情報収集を積極的に進めていく。
32	暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員間での情報交換をし、ケア会議を通じプランに沿った介護ができる様努めている。	
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の課題とケアのあり方について、本人、家族の意見・希望はもとより、主治医、母体施設の管理栄養士、看護師の助言を頂いて介護計画を作成している。	
34	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度、介護計画を見直している。また、心身の状態が変化し時は、本人、家族、関係者と話し合い、再アセスメントし、新たな介護計画を立てている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35</p> <p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子を記録し、気づきや変化については、申し送りし、情報を共有している。また、必要に応じて、家族への連絡、受診、介護計画の見直しを行っている。</p>		
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>			
<p>36</p> <p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人、家族の要望は、すぐに聞き入れるようしている。特に自宅へ一時帰宅や買い物、ドライブ等、希望時に迅速に対応している。</p>		
<p><b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b></p>			
<p>37</p> <p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>地域の駐在所に徘徊者の写真を提示し、お願いしている。又、区長さんからの情報等で、文化祭見学など、地域資源を徐々に活用している。</p>		<p>地域の皆さんが協力的で、声を掛けてもらっている。これから、災害時の協力のお願いや地域の皆さんを招待した催し物などを考えたい。</p>
<p>38</p> <p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>現在は必要に応じていないが、他の事業者と話し合あが出来ていて、情報の共有をしている。</p>		
<p>39</p> <p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>成年後見人制度や、地域権利擁護事業が必要な入居者に対しては、いつでも支援を受けられる様な体制を取っている。</p>		<p>地域ケア会議への出席など、始めたばかりなので、これから相談して行きたい。又、職員は、権利擁護や包括支援センターの役割等、研修などで周知徹底したい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅の時から主治医を継続しており、状態に変化があれば、早期の受診をしている。又、急変の場合は、入院先、緊急受け入れの病院等を医師、家族と相談し決めている。		
41 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の受診者が9名中7名おり、定期的に受診している為、随時相談することが出来る。又、法人の精神科担当医がいる為、必要時はそちらへの相談も出来る。		
42 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	スタッフに看護師が1名おり、必要に応じ、相談している。異変があった場合は、すぐに報告し、早期の受診などで対応している。又、母体施設の看護師の意見を聞く事も出来る。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院が決まった段階で担当ケアマネージャーか担当医師、看護師に情報を提供し、入院中の情報交換も定期的に行っている。退院時も同様に行っている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人、家族の意向を伺うが、入居者の重度化に伴い、考えが変化する場合もあるため、本人、家族、主治医と何度も話し合いの場を設け、方針を決めている。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所として設備面で介護が困難になった時は、本人、家族、主治医と話し合い、母体施設や、他の施設への移行を支援している。その間は、本人、家族の不安軽減のため、出来るだけの支援をする。		本人、家族のあらゆる要望に応えるため、終末期の体制も整えてきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住み替え時は、住み替え先の事業所やケア関係者と情報交換を十分にし、本人が混乱しない様な環境作りをする事で、精神安定が図れる様配慮する。</p>		
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1.その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は、本人の生活歴と性格を把握し、理解した上で、本人の尊厳を傷つけないように、さりげない介護と声掛けをしている。記録等では不適切な言葉使いをしないようにしている。</p>		
<p>48</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日常の会話の中から、本人の希望を聞き取り、答えやすい質問を工夫して、本人が決定出来るように支援している。</p>		
<p>49</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日々の生活パターンは、全体で決まっているが、個々の生活リズムを重視し、参加・不参加は自由で、やりたい事を優先した支援を行っている。又、外出や買い物も本人の行きたいときに支援している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>希望者は通い慣れた理容店、美容院へ送迎を行っており、衣類の買い物も本人の希望する店へ一緒に出掛けている。身だしなみについて質問された際は、助言も行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に調理、盛りつけ、片付けまで一緒に行っている。味付け確認を行いながら、昔ながらの味付けに近づける様にし、満足感をえられる事で楽しく食事が出来ている。		
52 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康面に配慮しながら、嗜好品を一緒に買いに行ったり、代行している。好みの物を制限されている感じを与えない様、管理できる入居者は居室に保管したり、個々にあわせて提供している。		
53 気持よい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の訴え時は、速やかに誘導している。又、訴えの聞かれない入居者に対しては、時間を決め排泄介助を行っている。排泄は全員記録している。		
54 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴が出来る準備ができています。現在は、入浴時間の希望が無い為、毎日午後に入浴時間を確保、週2～6回入浴されている。入浴時間や温度も健康状態に配慮しながら、本人のペースに合わせ満足されるよう支援している。		希望があれば、夜間入浴も実施したいと思う。
55 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自室には馴染みの家具を持ち込んで頂き、心休まる環境作りをしている。又、自室以外でも本人の居場所が決まっており、安心して過ごさせている。就寝時間は自由で、眠れない方には、温かい飲み物を提供している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の能力を生かせるように、レクリエーション等は各自の希望又は好む事を行っている。又、生活歴や趣味の聞き取りから、一人ひとり楽しめる(洗濯たたみ・食器洗い・食器ふき・掃除・チラシたたみ等)を手伝って頂く事で自然と役割が持てるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理出来る方、又は所持する事で、本人が安心される方に関しては所持して頂き、他の方に関してはホームの方で代行している。どちらも家族の了解を得ている。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に沿って、できる限り職員付き添いにて、買い物を楽しんで頂くよう支援している。又近隣に神社、公園等があり、散歩にも出掛けている。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事を行う際、利用者の希望を聞き入れ、計画を立てたり、市で行われる催し物などに、できるだけ参加するようにしている。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用出来、電話番号を知らない入所者には職員代行にてダイヤルし、いつでも連絡できる状況にしている。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者に気分良く入って頂く為に、玄関周りは清潔にし、職員が明るく挨拶するようにしている。又、気楽に会話を楽しめる様に、自室へお茶を運んでいる。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはマニュアルを設け、回覧している。運営者及び職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関に鍵を掛ける事はせず、自由に外出できるようにになっている。その場合は、必ず職員が見守りする。しかし、職員の見守りには限界がある為、裏口(非常口)には、入居者が分からないように、感知センサーを取り付けている。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人が、安全に自由に過ごせる様に、常に見守りをし所在や様子を把握している。その際は、距離を置いて自尊心を損なう事の無い様に、プライバシーに配慮している。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の能力に応じて、裁縫道具など生活に必要な物品を所持する事は自由で、所持者と場所の確認をしている。又、誤飲等の危険性のある物は(ハイター・石けん等)は、利用者から見えない特定の場所に保管している。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを記録し、事故防止に努めている。毎月の園内研修を実施しており、そこで勉強する機会を設けている。また、外部研修にも参加する機会を設け、研修発表と回覧で事故の危険性を認識し、事故防止に努めている。		まだまだ、危機感が足りないと思うため、更に外部研修への参加などで勉強して行きたい。
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に行っていないが、各自マニュアル資料にて確認している。		実技講習を行う事で、技術を身に付けた行きたい。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけをしている	図上訓練にてシュミレーションを行っているが、まだ不十分であり地域との連携も始めたばかりである。		地域とのつながりを増やし、皆さんに協力頂けるよう働き掛けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p> <p>同居時の説明で、リスク説明をし、本人の意向をふまえ、家族と話し合い、介護の方向を決めている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p> <p>毎朝のバイタルチェックをしている。日常のどんな時でも観察し、異変が見られた際は、申し送りを徹底し情報を共有している。医療の必要があると判断された時は、直ちに受診している。</p>		
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p> <p>記録に服薬の用法や副作用について記載され、いつでもみれる状態にある。薬の仕分け担当、服薬支援担当と二重に確認し、事故防止に努めている。</p>		<p>微量な服薬の変化でも敏感に反応される方もいるので、薬の効果をもっと理解して行きたい。</p>
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p> <p>毎日排便チェックを行っている。日中の活動の中で、体操や歩行運動なども行い、水分補給などにも努めている。</p>		
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p> <p>自立されている方には毎食後、声掛けをし、要介助者には義歯洗浄を代行、歯磨き介助する事で保清に努めている。</p>		
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> <p>管理栄養士の献立で、食事が作られており、栄養面の心配はなく、水分量・食事量を毎日記録し、健康管理に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いうがいを徹底し、排泄介助の際は専用のエプロン、手袋、マスクしている。又、次亜鉛酸ナトリウムにて身の周りの消毒を行う事で感染予防に努めている。感染時の汚物処理や個室対応出来るよう準備が出来ます。屋外感染時期は、外出を控え、通院も午後にするなど工夫している。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ふきん・まな板・おしぼりは毎日、冷蔵庫は定期的に、次亜鉛酸ナトリウムで消毒する事で除菌を行っている。スタッフ、利用者共に食事準備の前に手洗いし、アルコールで殺菌している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	鍵を掛けない事により、一般家庭と同じ環境を作り、いつでも面会に来られても大丈夫なようになっている。また、玄関先には花を飾るなどの雰囲気作りをしている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の写真や入居者と一緒に作った季節毎の作品を飾り、観葉植物や花を置き、居心地の良く過ごせるように工夫している。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自ホールへ来られ、職員と共に会話を楽しまれたり、居室にて気の合う入居者同士で会話をされたり、居室にてテレビを見たり、本人のペースにて過ごされている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた、寝具、家具を持ち込んでいただいているので、配置する事で、居心地の良い空間になっている。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>毎日、清掃の時間は、換気をし、温度、湿度調整をしている。特に居室の温度調整は個人毎に異なっているため、こまめに行っている。湿度調節は換気その他、濡れタオルを掛け調節している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>生活習慣又は、個々のADLを考慮して家具配置を行っている。トイレは一部介助者・全介助者のそれぞれに対応出来るように広さが違っている。2階のため、階段の上り下りをする機会があり、安全に注意しながら、ADL低下防止のためにも、出来る利用者は階段を利用している。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>アセスメントをし、出来ることを中心に支援している。混乱を招かない様に、一つ一つ順を追って支援し、また、自信につながるように、喜び、称賛する雰囲気作りにも力を入れている。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>食堂やホールの空間を広くとっており、日頃の活動や行事に生かしている。台所では、入居者が2～3人会話しながら食事準備が出来るスペースがある。暖かくなると庭のベンチで読書している姿も見られる。</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

住宅街の静かな環境の中で、緊急の病院や公共の施設へは、15分以内という立地条件の良い面を生かし、自由に外出出来て地域の中で生活する事を生き甲斐にし、入居者、ご家族の希望に沿えることを第一に安心して、ゆっくり、のんびり、元気に過ごしていただくように努めています。一日の始まり、掃除を一生懸命する入居者、食器を片付けている入居者、新聞を見ている入居者、お化粧品に余念のない入居者、朝の一こまを見ても、それぞれに自由にされています。入居者それぞれに自分の得意な役割が出来て、それが自信となることで、入居者同士お互いに気遣ったり、助け合ったりする事が出来るように支援しています。